

手をつなぐ
鹿島育成園だより
夢を語り夢をかなえる

編集者 高橋 英一

法人本部・生活支援センター
〒314-0016
茨城県鹿嶋市国末1539-1
TEL 0299(82)6464
FAX 0299(83)3261

鹿島育成園 (児童寮及び育成寮)
〒311-2401
茨城県潮来市大賀438-4
TEL 0299(66)3439(代)
FAX 0299(66)3431

<http://www.kashima-ikuseien.com/>
mail:kaikusei@eagle.ocn.ne.jp

定価 100円



年頭にあたって

園長 高橋 英一

皆様明けましておめでとうござ
います。本年もよろしくお願
いいたします。

さて、昨年を振り返ると障害のある方達を巡る暗く悲しいニュースが多かったと思います。七月末に神奈川の「津久井やまゆり園」での殺傷事件は社会的にも大きな衝撃を与えました。当初私も障害のある子の親として子どもの存在価値を否定された様な気がして、切ない想いをしました。

しかし、この事件の容疑者はいつからあのような考えを持つようになったのだろうか。未だ解明されていない事が多いと思われま
す。センセーショナルな事件は一時的に関心を持たれますが日常生活の中で他者を卑下したりする行動や行為が無かったらどうか、特に児童施設を経営する鹿島育成園の一員として、子ども達のみならず、若い職員にも良い影響を与え続けられる様、一層の努力をした
いと思います。



研修報告

「高齢化」～知的障害と認知症

生活支援員 山澤 朋美

知的障害者に「認知症」はあるのか。この問いに関して長年議論が続けられています。海外ではこの題材を扱った論文が多数存在し認知症はであると定義されているのに対し、日本における先行研究は殆ど無いに等しいという事を知り、我が国の福祉がいかに遅れを取っているかを目の当たりにしました。ある調査によれば、高齢化や老化を問題視している入所施設の割合は八割を超えているそうです。当施設でも例外ではなく、年々認知症の疑いのあるケースが増えていきます。講師の木下大生氏によれば、知的に障害のある人の認知症は「発見」と「診断」が困難という大きな二つの困難を抱えている。にも関わらず、特にダウン症の人においては早期に罹患する確率が一般の人よりも高いというリスクを背負っ

ているそうです。それらを念頭に置き、日頃から利用者の小さな行動の変化を見落とさないよう支援にあたっていきたいと思

育成寮

ナイスハート見学(12/10)

今年もポプラ班の作品「竹取物語」や陶芸作品の見学に行きました。



児童寮

福祉マラソン大会(11/27)

児童寮 T・T

十一月二十七日に東京での福祉マラソン大会に参加しました。午後からの開始でしたが朝は雨が降っていて不安でした。他の子と話しながら楽しく会場まで向かいました。コースは自分のペースで走るコースでしたが自分よりも早く走っている人がいて驚きました。順位は上位の方でしたが次に走る時はずっと上になれるといいなと思います。学校でもマラソンや、現場実習があり体力は大切だとも思いました。途中から雨で閉会式が中止になったけれどもその前にみんながゴールできて良かったです。

クリスマス会(12/25)



今年もイオン鹿嶋店様にご参加いただきました

多機能型事業所 アイリス

就労支援員 磯野 礼子

現在、アイリス就労移行支援では利用者さんの外部実習を活発に取り入れた訓練を行っています。美咲さんは、就職を目指して、育成園の厨房で昨年の8月より実習を行っています。厨房職員による支援のもと、マナーの習得をはじめ、配膳や洗浄などを中心とした業務を行っています。わからないことを職員に確認できない等まだまだ課題も多くありますが美咲さんの希望がかなえられるよう、職員間で連携を強め支えていきたいと考えています。



個別支援計画から

副主任 貝塚 卓弥

現在、グループホームでは20代から70代の31名の利用者が生活しています。年齢層も幅広く、普通自動車免許の取得がしたい、一般就労を目指したい等、一人ひとりニーズも様々です。

40代の男性Aさんには、将来はグループホームを出て、自立して生活がしたいという目標があります。日中は、就労継続支援A型の事業所に通い収入を得ていますが、対人関係が苦手なAさんは、他の利用者さんとなかなか良い関係が築けず、徐々に仕事も休みがちになりました。アセスメントの為に面接する場を設けようとしたが、人がいる場所では話したくないという要望があり、外出時の車内で行いました。その中で、数名の利用者さんが苦手だということ、事業所内での仕事が嫌だということ、Aさんの思いを知ることが出来ました。もう辞めたいという言葉も出ましたがAさんの目標は何か、その為には何が必要かを

再度話し合い確認しました。その後、事業所の担当者とも話し合いをした結果、外部の仕事も多くしてもらい苦手な利用者さんとなるべく関わらないよう配慮してもらえらることになりました。「力仕事が得意なAさんに辞められたら困りますよ。明日待ってますね」と言われた時のAさんの表情を見てホッとしました。

個別支援計画を作成するにあたり、私たち支援者がどれだけ利用者を理解しているのかがとても重要だと思えます。利用者の中には、自分のニーズを整理できない、真意とは裏腹なことを表現してしまう等、意思表示が困難な利用者もいます。ただ利用者のニーズを聞くだけではなく、どうやって利用者のニーズを引き出すのか、そういった支援も求められていると感じます。その為には、利用者と同じく向き合い、信頼関係の構築が必要不可欠だと思います。

交流会 (10/8)

センター登録者 U・C

何もかもが初めてで不安や緊張しがちでしたが、知っている人がいたので安心して参加出来ました。まず、切り絵作りをやりました。切り絵作りは、初めての事でどうやって作るのだろう、上手に出来るか不安でしたが、実際紙を切ってみると細かく難しかったです。カッターが上手に切れず悪戦苦闘で、きれいに出来なかつたけど、なんとか完成して良かったです。切り絵をやってみて気付いたことがあります。それはカッターでした。普段からカッターで物を切る事があまりないので、自分の不器用さを痛感しました。次にやる機会があれば、きれいに上手に作りたいです。あとはカルタ大会やもちつきをやりました。もちつきは機械ではなく、杵でもちをつきました。思ったより難しかったです。美味しかったです。みんな仕事を頑張っていることが分かったので、



私も仕事を頑張ります。

医務室から

看護師 鈴木 ひろみ

季節性インフルエンザをはじめ、冬は感染症が猛威を振るう季節です。すでにノロウイルスの集団発生や鳥インフルエンザなどもニュースになっています。まずは手洗い、うがい、せきエチケットなど、予防の基本をしつかりと再確認しましょう。また、ウイルスに抵抗する免疫力も大切です。栄養バランスのよい食事をとる。日ごろから適度な運動をして体力をつけておく。きちんと睡眠をとる。など

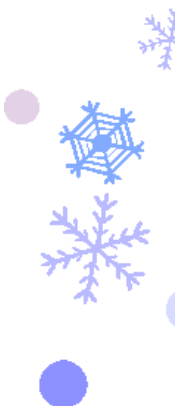
これらも再確認が必要ではないでしょうか。いろいろな感染症を寄せつけない身体づくりをしましょう。そして、感染症をうつし、うつされないように心がけましょう。



今年の干支を切り絵にしました

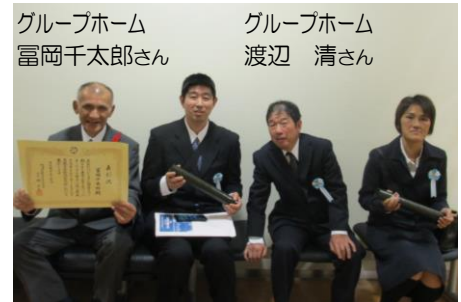


カルタ大会





収穫祭 (11/13)
多くの皆様にご参加いただき
収穫祭を行うことが出来ました。



永年にわたり企業にお勤めしている皆さんが第66回茨城県社会福祉大会にて表彰されました。

茨城県社会福祉協議会
会長顕彰 受賞

編集後記
本年は酉年。「とりいれる」という言葉から商売繁盛の年とされています。商売となると子ども達には少し縁がありませんが、知識や経験をたくさん取り入れられる年である事を願っています。
(松枝)

- 行事予定**
- 1月 8日 育児 帰寮日・新年会 監査
 - 30日 2月
 - 3日 育児 節分 理事会
 - 19日 3月 育児 ひな祭り 理事会

- 寄付・寄贈・招待**
- リスカ (株) 様 (茨城県)
 - 鹿島ボランティアネットワーク様 (東京都)
 - 水島 由美子 様 (茨城県)
 - 鷗崎 邦司 様 (千葉県)
 - 東京馬主協会 様 (東京都)
 - 全タイヨー労働組合 様 (茨城県)
 - イオン鹿嶋店 様 (茨城県)

- 育成寮 退所**
- 山崎 友広さん
 - 小澤 和さん